

ご挨拶

岐阜県小学校理科研究部会

会長 浅野 竜也

第32回岐阜県小学校理科研究大会東濃大会開催に当たり、県内各地から多数の先生方のご参加をいただきますことを、心よりお礼申し上げます。

前回の県大会は令和元年度に、第52回全国小学校理科研究協議会研究大会岐阜大会として開催され、多くの方にご協力、ご参加いただき、ご助言、ご示唆をいただきました。ありがとうございました。その後、ご承知のとおり、新型コロナウイルスの流行により、学校の教育活動が一部停止するなどの措置がとられました。理科教育においても同様に様々な制限がかかり、岐阜県が今まで大事にしてきた“ものに始まり、ものに終わる”という学びや、実感を伴った理解、科学的に解決するための資質・能力の育成で大切にしてきた観察・実験・交流が困難になるという事態が発生しました。

一方で、コロナ禍は、GIGAスクール構想における一人1台の情報機器を用いた教育を推し進めました。チャットGPTをはじめとした生成AIの登場により、VUCAといわれる時代がより身近に感じられる中、私たち理科教師は、子どもたちにどのような資質・能力が必要で、どのように身に付けさせるか、理科教育が担う役割は何か、と整理して子どもたちに向き合う必要があります。

以前勤務していた学校での出来事です。小学校3年生で、自分が飼育したモンシロチョウの幼虫の蛹が透明になってきたことを見つけた子どもは、羽化が間近であることを予測し、何の授業をしても蛹が気になり、教室を離れる時にはタブレットで録画するまでの気の入れようでした。蛹から羽化した瞬間、目を輝かせモンシロチョウを見つめる中で、背中の上の方が割れてもぞもぞしながら体をだしている、蛹から出たらすぐに上に登っていくのは羽を伸ばす場所を探すためじゃないか、など細かな観察力や豊かな発想にもとづく発見をしました。

さらに、自分のタブレットで録画も成功した彼は、仲間との交流で何度もその様子を見せながら、説明をしていました。実物や体験による感動を伴った発見と、情報機器を活用した再現性をうまく融合させる学びがありました。

今回会場となる上矢作小学校では、奥山に立地する利点を生かし、自然に触れる機会、体験が多くあります。また、少人数での学習の利点を生かし、安定した人間関係の中でどの子も思った事が口に出せ、全員の学習に途切れがありません。情報機器も活用するなか、令和4年度から「理科の見方・考え方を意識的に働かせ、自然を追究する理科学習～問題を科学的に解決するための資質・能力の育成を目指して～」をテーマに研究を進めていただきました。

また、低学年ではプログラミング教育の一環として株式会社ROBOZから講師を招き、ドローンを使った教育を続けてみえます。本大会でも、全大会講演の講師としてROBOZ代表取締役の石田宏樹様をお招きしました。プログラミング教育の意義や今後の可能性について新たな知見が得られるものと考えております。

最後になりましたが、本大会開催に際しまして、これまで温かいご指導・ご支援また、ご尽力をいただきました、恵那市教育長岡田庄二様、岐阜県教育委員会、恵那市教育委員会、東濃地区各市の関係者の皆様、そして、授業を公開していただきました恵那市立上矢作小学校の校長先生をはじめとした教職員の皆様、実践発表いただきました先生方に心から感謝申し上げます。

参観される皆様にとって、実りある大会になりますことをご祈念いたします。